

<調査報告>

沙流川筋中流域における、イナウに使用する樹木に関する報告(その2)

貝澤 太一

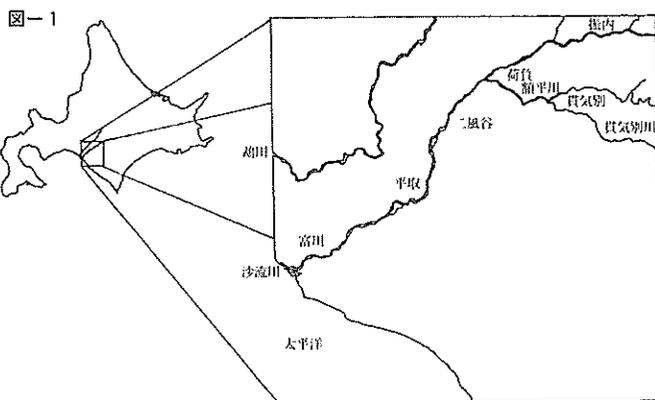
目次	1. 調査目的と方法
	1. 1 調査目的と本稿の概要
	1. 2 方法
	2. 調査報告
	2. 1 凡例
	2. 2 調査報告
	2. 3 pakusaha：パクサハとクルミのイナウ（黒川セツ）
	3. あとがき
	参考文献

1. 調査目的と方法

1. 1 調査目的と本稿の概要

本稿は、長期研究テーマとして
いる『アイヌ文化の植物利用に関
する調査』にそって、基本的なデ
ータ作りを目的とした調査の報告
である。

前回の報告である『沙流川筋中
流域における、イナウに使用する
樹木に関する報告(その1)』⁽¹⁾は、
特定の地域内での、イナウに使用する樹木のその樹種と使用方法を、情報提供者から聞き取り調査し、それを元に基礎的データ作りをするという研究テーマに基づいた形で行った。



(1) 『北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究紀要 第2号』(1996年3月)

本稿は、その継続研究の二回目の報告となる。

今年度は、これまでの種々ある先行研究から、イナウに関する使用例を沙流川流域に関する記事を中心に網羅的に挙げ(表参照⁽²⁾)、その対象となる樹木に関して、主に沙流川筋中流域として貫気別と二風谷(図-1参照)の2カ所を調査対象地として選び、イナウとしての使用の有無をはっきりさせ、その使用法についても、なるべく聞き取れる範囲ではっきりさせることを目的とした。

1. 2 方法

本稿を作成するにあたって、その貴重な情報を提供していただいた方々を紹介する。

平取町二風谷 貝沢市太郎 (1915：大正4年生)

同 貝沢アサノ (1924：大正13年生)

平取町貫気別 黒川セツ (1926：大正15年生)

本年度の調査活動は前に述べたように、前回の報告を引き継ぐ形で行い、上記の3名の情報提供者を対象に、1996年5月から同年11月に至るまで月一回の割合で、主に室内での聞き取り調査を行った。そして本稿ではその中でも、貝沢市太郎さんと貝沢アサノさんに関しては、1996年10月の調査を、黒川セツに関しては、1996年10月・11月の調査を元にまとめる形をとった。尚、前述以外の調査での本稿に関係する聞き取りについては、註に記す。

また今年度は、屋外で実際に山に入り、樹木の同定の為の聞き取り調査も、秋期に一度おこなった。

この調査の時期に秋期を選んだ理由は、下草が枯れて山が歩きやすく、木肌も見やすくなり取材が比較的容易だと考えたためであり、実際にそれなりの効果を得ることができた。

ただし、この同定調査は本稿の情報提供者である黒川セツさんに於いてのみ実行出来たが、貝沢市太郎さん、貝沢アサノさんについては、調査を実行する事はできなかった。

2 調査報告

2. 1 凡例

今回は、後述の参考文献にイナウ (situ-inaw：シトゥ イナウ(棍棒・木幣)も含む) としての使用例のある樹木を網羅的にあげ、その上で、その樹木に関して、「イナウとしての使用例を、聞いたことがある(知っている)か、ないか。」についての質問を第一項目において、あるなしに関わらず聞き取り、それを記載した。したがって「聞いたことが無い」という記載だけにとどま

(2) 表の、アルファベットは本文中の樹木名に対応し、数字は後述の参考文献の数字に対応する。樹木名で途中数字が抜けているのは、文献の樹木名と対応しないため。

る場合もある。

また、イナウの使用法以外についても併せて記載した。

樹木名項目は、情報提供者が、記憶や図鑑の図を指さしながら、口頭から出した樹木名（図鑑の和名とは必ずしも一致しないため、和名は、括弧内に記した）を項目にして五十音順にならべた。

報告内での樹木の学名は、主に、宮部金吾・工藤祐舜『普及版 北海道主要樹木図譜』（1986）から引用し、情報提供者の説明の無いアイヌ語に関する確認とカタカナ表記は、田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』（1996）を参照した。よって、不足分の文献での引用は、註記をすることにする。

また、今回はアイヌ語のカタカナ表記と樹木の学名の部分を、他と区別するために斜体文字で記載する。

2. 2 調査報告

A) エゾノウワミズザクラ (*Prunus padus* L.)

・kikinni：キキンニ（エゾノウワミズザクラ）はナナカマドに似ているんだ。色から全部枝っぷりまでな。それを、子どもの時に、よく、親父に取りに行かされた。

二日酔いした人、酒飲んで二日酔いした人に、それ、やかんに入れて沸かして飲んだんだ。それで、採ってこいって言われて採りに行かされたんだよ。

キキンニでイナウを作るのは、見たことない。それ、聞いたこともないもの。（貝沢市太郎）

・昔は、水さも悪い神さまあれ⁽³⁾ しないようになって、なんかキキンニだかってどんな木だか知らないけれど、キキンニを水桶さ入れておけば良いって。昔はね、水は、こんな今みたいに便利じゃないから、こんな桶さ水汲んできて入れるんだ。そこさ刺しておけば良い⁽⁴⁾ なんだって。

そこさ刺しておくのさ。邪魔にならないように。そして魔除け。まずさ、ほんとマンガだ。（貝沢アサノ）

・見たことない。（黒川セツ）

B) エンジュ（アイヌエンジュ： *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. var. *buergeri* C.K. Schn.）

(3) 「人間に対していたづらをする（病気にしたり、どこか身体の一部を痛くする）」の意味

(4) 貝沢アサノさんの暮らしていた家では、二斗樽にいつも水を入れて置いてあり、キキンニの枝を採ってきて、樽の中に立てておき、浮いてこないように蓋で押さえていた。蓋はいつも少し空けておき、そこから水をくんでいた。

- ・エンジュでinaw：イナウ（木幣）は作れない。体（図-2）にはするけど、イナウにはしない。家の…おれの、epunkine kamuy：エプンキネ カムイ（（そこ）を守る神）（写真参照）みたいなものには、ドスナラ⁽⁵⁾（ハンドイ）かエンジュしか使わない。
結局、あれも悪魔除けしきにだべさ、エンジュも。（貝沢市太郎）

- ・見たことも聞いたこともない。エンジュの皮は、今も魔除けにバックさでも入れて歩いているんだよ。父ちゃんこしらえやつ。（貝沢アサノ）

C) カシワ (*Quercus dentata Thunb*)

- ・カシワの木だら、あれは薪材だ、ほんとに。したから、昔からヤナギだとか使ったものでしょ。ミズキは性良いからな、あれ。その代わりちょっと乾いたら、inaw makiri：イナウ マキリ（木幣・小刀）滑ってしまうけど。（貝沢市太郎）

- ・カシワの木もないわ。縫りもかからんべや。全然。やっぱり、縫りのかかるような柔い木を選んだもんでないのか。（貝沢アサノ）

- ・聞いたことない。考えられない。（黒川セツ）

● ここでカシワの染料としての使用法も語られたので記載する。

- ・昔は、染めるのに利用したみたいだけどな。木の皮を。（貝沢アサノ）

- ・皮、皮な。カシワの木の皮よ。あれ、こう煮付けて、今度、漁師は網だとか、ロープ浸したりだとか。漁師の網、魚獲る網。あれ染めるのにも、あのカシワ木の皮剥いでやるんだ。あれだとか、シコロの木だとかクルミの皮だとか。（貝沢市太郎）

- ・うん、toma：トマ（ござ、敷物）のは…、シナの皮も染めて使ったもんな。色や模様付けるときに。

そういうのも、とにかく、カシワの木だとかクルミの皮だとか、シコロだとか、ああいうやつ

(5) ハンドイの別名である。後述のハンドイの項に記載。ここでのハンドイとエンジュは直接inawke：イナウケ（木幣を削る）される事はないが、その木そのものに魔除けの力があると考えられていて、それを本体にして鉢巻きを巻き、inawkike：イナウキケ（イナウの削り片）を刺していく（図-2を参照）。

ら何なりやるときに、いろいろ赤だとか青だとか黄色に染めるべき。

したから、ロープでも何でも、ああいうものも油で木の皮煮詰めて、それで染めたもの。(貝沢市太郎)

D) キハダ(ヒロハノキハダ: *Phellodendron amurense Rupr. var. sachalinense Fr. Schm.*)

・シコロのイナウって言うのは、あんまり数はこさえない。⁽⁶⁾ 本当の昔のイナウだから、一番肝心な時に、山へ何か災難にでもあったり、いろんな怪我や困難にあった場合に、山のkamuy: カムイ(神)に拝む時は、ああいうシコロで作るって聞いたことあるけど、(それ)以外は、普段はあんまりそういうシコロのイナウはこしらわない。

だいたい、一番作っているのは、ヤナギの木、あれでないの。(貝沢市太郎)

・二風谷のおじさん⁽⁷⁾がシコロの木でイナウを作るって言ったでしょ。それも聞くの初め。こちら辺ではそんなの聞いたこと無い。

クルミ⁽⁸⁾の木も、yupkeepotara: ユッケエポタラ((人)に悪神祓いの強いお払いをする。)するときに、クルミの木でイナウこしらえて助かったって言うのも、それも初めて聞いたんだわ。

やっぱりその、病気の治らない人を助けるために、クルミ…シコロの木でイナウこしらえてce-horkakep: チェホッカケ(された・その頭・逆向きに・削る・もの)⁽⁹⁾こしらえてやったと思うよ。

だから、それだってやっぱり、ほんとの昔にそういう事あったから、あのおじさん知っててやったと思う。(黒川セツ)

E) クルミ(オニグルミ: *Juglans ailanthifolia Carr.*)

・クルミのイナウも見たことある。だけど、だいたいああいう儀式の時には使わない。まあ、観光地でやってた⁽¹⁰⁾イナウは、主にあれでやった。それはもう、30年も40年も前になるよ。(貝沢市太郎)

・ヤナギとミズキと、nesko: ネッコって言うクルミの木は、epotara: エポタラ(お祓い)する

(6) 「作らない。」の意味

(7) ここでは、貝沢市太郎さんを指している。

(8) ここでは、聞き取りのとおり記載したが、後日の確認より、ここで本人は「シコロ」と言いたかったらしい。

(9) 木幣(イナウ)の一種で、他の木幣とは逆に、上から下へ向かって削ったもの。したがって削り花もちょうど髪の毛が逆立ったような形になっている。(1996: 田村)

(10) 貝沢市太郎さんは普段からイナウケしていたわけではなく、30年位前から登別の熊牧場にお土産品として作り始めた。(貝沢市太郎)

ときに使うものだから、やっぱり、龍神さんでも良いのと悪いのといえるから、当たり前な立派なイナウでなく、nesko inaw : ネッコ イナウ (クルミ・木幣) でhopunire : ホブニレ (神を神の国へ送る) するとかって言うことは聞いたことあるけどね。

だから、ネッコ イナウは、当たり前なヤナギの木とかミズキの木、inawneni : イナウネ (= ミズキ) でちゃんとした良いイナウを持たせないで、悪さして人を苦しめたりいじめたりしたものに持たせる。

やっぱり何にも持たせないでカムイの所に行かせると、一番偉いカムイに怒られるから、という事で、ネッコ イナウでイナウ作ったみたいだよ。

おばさんは、そのネッコ イナウで、ネッコ イナウ、イナウケしてkamuynomi : カムイノミ (神を・まつる) してもらった事ある。

ミズキでちゃんとエブンキネ カムイをイナウにしたやつ今でも枕の下に入れ寝てるけどね、それは、おばさんに守るイナウだから、絶対に病院行ってもどこ行っても、持って歩いているけれど、ネッコ イナウって言うのは、同じ龍神さんでも良いのと悪いのといえる。その蛇の神さんでも、いっぱい立派な神さんがいて、あと、そこらへん野放しされてるのがpakusaha : パクサハ⁽¹¹⁾ っていうんだからね。

それと同じで、龍神さんだって、蛇は沢山いても、その中に一番偉い殿様がいるから、だから、その本当の立派な龍神さんであれば、ちゃんとしたイナウあれする⁽¹²⁾ だけけれども、パクサハで悪さして、人を苦しめたりいためたりするものを、何もしないでカムイノミするわけにいかないからって言って、ネッコ イナウでカムイノミしてもらったことあるけどね。

それで、ネッコ イナウって、ekas : エカシ (祖父) ら昔、イナウケしてイナウちょしていたけれども、ネッコ イナウって言うのは見たことない、聞いたこと無いから、「ああ、良いイナウだ。」って思ったけど、あとでよく聞いてみたら、龍神さんでも、人を苦しめたり、ほら、頭痛くしたり首痛くしたり、手痛くしたりいろいろ悪さする。

だからそれを諫めるのにカムイノミするけど、何もイナウも持たせないでやると、神の国に行っても申し訳ない可哀相だからって言うわけで、まともなイナウじゃないネッコ イナウでカムイノミしたもんだわ。わしが20代の頃だからね。

そして急に頭痛い首痛い、いっつも首痛い頭痛いして、家の舅ばあさんの妹がtusu : トゥスする人なものだからトゥスしたら、龍神さんはkinasut kamuy : キナスツ カムイ (草の根もとの神) って言うんだから、そのキナスツ カムイの一番悪いパクサハが、そういう風にして、道路でひかれて死んだか山で死んだかのを、おばさんがどこかで見たんだね。

それを、若いから気にも止めないで通るっしょ。今こそあまり見ないけど、昔はほんとに車にひかれては、道路で死んでたり横にぶん投げられたりしているの見て通っても、たいした感じな

(11) より一段下の神、はした神(1993 : 金成まつ、金多一京助)、より一段下の神(1992 : 久保寺逸彦)、仲間(1968 : 北海道教育委員会)

(12) 「付けてやる。いっしょに神の国に送ってやる。」の意味

いで通ったのが、それが「ワシに触われば」と思ってわしに「触わって」、⁽¹³⁾それで肩も痛い頭も痛かったんだって言うトックスされて、それでネッコ イナウでカムイノミしてもらったことある。

だからね、おばさんは見ているのは、nesko…inawkeそのクルミの木はそれで使ったの覚えあるし、ヤナギ（後述）とかミズキ（後述）は絶対にそれこそ、立派なカムイノミするときカムイホブエレするとか、何かのときには、ほんとにミズキとかヤナギ使ったからね。（黒川セツ）

F) コブシ(キタコブシ : *Magnolia kobus* DC. var. *borealis* Sarg.)

・全然聞いたことない。イナウかい、作ったのも見たことないけれども、聞いたことないもの。あの木は結局は、オタマ。あれ作るだとかに使うくらいだな。（貝沢市太郎）

・コブシなら、なお無いわ。（黒川セツ）

G) サクラ(エゾヤマザクラ : *Prunus sargentii* Rehd.)

・マキリの柄さ巻いたり、箕を作ったりする。あと弓に巻いたりもしたけど、イナウに使ったのは見たことない。（貝沢市太郎）

・無い。（黒川セツ）

H) シラカバ(シラカンバ : *Betula platyphylla* Sukatchev var. *japonica* Hara.)

・見たことないな。（貝沢市太郎）

・無い。（黒川セツ）

I) センノキ(ハリギリ : *Kalopanax pictus* Nakai.)

・いや、いや、ますます見たことないわ。天秤棒でも作るなら良いけど。担ぐやつ。タランボセンって、あの、太いやつ⁽¹⁴⁾さこれくらいの。それを二つに割って（棒状に）取るんだ。じゅうじゅう（重々）と肩にくるから、普通の木なら硬いからグググッと肩にくるけど、そのタランボでやると、木が粘り強いんだな、あれ。（貝沢市太郎）

(13) 黒川セツさんの話では、この人なら何とか救ってくれるのでは、と思い、その人にすがって取り付くこと。

(14) 直径10cmほどのものを使用する。

- ・見たこと無い。聞いたこと無い。(黒川セツ)

● タモ類

J) アオダモ(*Fraxinus sieboldiana* Bl.)

・アオダモでイナウなんて出来ないもの。硬くて。聞いたことも見たこともないね。アオダモは主にスキー材だ。(貝沢市太郎)

- ・聞いたこともない。(貝沢アサノ)

- ・無いな。(黒川セツ)

K) ヤチダモ(*Fraxinus mandshurica* Rupr. *vor. japonica* Maxim.)

・ヤチダモはアオダモより柔いけれども、あれでイナウ作ったの見たことない。アオダモは主にバットー(バット)材だもの。(貝沢市太郎)

L) タラノキ(*Aralia elata* Seem)

- ・あんなもので作れないよ。とっても冗談じゃないよ。皮剥いてもだめだ。(貝沢市太郎)

- ・タランボの木か。見たことないない。(黒川セツ)

M) ドスナラ(ハシドイ: *Syringa japonica* Decne.)

・主に腐らないから。あれも、イナウの体(図-2)にしたり、柱にだとかに使ってるんだ。骨みたいだ、あれ。(貝沢市太郎)

・ドスナラは、cisekorkamuy: チセココカムイ(家の守り神)とか何か、エブンキネ カムイとか作るやつ、木の芯(図-2)にする。あれを傷つけてそこさヤナギで掻いたやつを、傷に刺してきれいに作るんだからね。(貝沢アサノ)

- ・聞いたことない、全然。(黒川セツ)

N) ドロノキ(*Populus maximowiczii* A.Henry)

・ドロノキならなお。あれ、家の壁にするのにも使うなって言うくらいなもの。そっくり返ってひどいんだ。だから、ドロノキも使わないな。あれも、魔物の一種なもの。

だから、ドロノキは、あまり何かに使うものでないって言われていたよ。(貝沢市太郎)

- ・この木は、乾くと振じれたり曲がったりして、すぐ狂いが出るから使えない。(貝沢市太郎)
- ・ドロノキなんか、すごく精神の悪い木だって言って、この辺でなら切らんもの。

ドロノキはすごく精神悪いんだってね。だから、ドロノキでは、どんなに太くても良くて、板にしたり何かしてはならない、柱にしてもだめだっていう言われ、あるもの。(貝沢市太郎)

O) ナナカマド(*Sorbus commixta* Hedl.)

- ・ナナカマドでイナウなんか作ってるのは見たことない。(貝沢市太郎)
- ・私も見たことない。(貝沢アサノ)

・ナナカマド? kikinni: キキンニ (ナナカマド)⁽¹⁵⁾ でしょ? キキンニなら無い。

キキンニはやっぱり、こちら辺(貫気別)で使ったのは、二日酔いするとき piyapa sayo: ピヤパサヨ (ひえ・おかゆ?) こしらえて、そこさキキンニ入れて、そして hopsekar sayo: ホッセカサヨ (するすと音を立ててすすす・おかゆ?) にして飲んだり、それに今度、お湯沸かして、湯飲みにでも入れてそのお湯を飲んだり、それはするけど、キキンニのイナウっていうのは聞いたこと無い。そして、キキンニは採ってきては、入り口に置いたりいろいろしたりしたけど、それ以外は全然。(黒川セツ)

P) ナラ (類)

○ ミズナラ(*Quercus mongolica* Fisch. var. *grosseserrata* Rehd. et Wils.)

・ミズナラでイナウを作ったのは聞いたことない。ミズナラは、こう、薄い皮でとても触わりが良い。皮をはがして触っても、手にとげも刺さらないくらい柔らかい。

ミズナラは、あまり使えない。腐り易いから。(貝沢市太郎)

(15) ここでは、黒川セツさんは、ナナカマドのことをキキンニとしている。キキンニに関しては、エゾノウワミズザクラとナナカマドの使い分けがはっきりしていないが、本稿の調査対象地でも二風谷地域での聞き取りでは、青木トキさん(1915:大正4年生)、貝沢市太郎さん、貝沢アサノさんが、文献では萱野茂が『萱野茂のアイヌ語辞典』などがエゾノウワミズザクラをキキンニ、ナナカマドを iwa kikinni: イワキキンニ(山地の・キキンニ)(知里真志保:1975)と使い分けしている。

○ イシナラ(コナラ：*Quercus serrata* Thunb.)

・イシナラでもイナウ作ったの聞いたことない。イシナラは皮がごつく、こうくつついている。⁽¹⁶⁾

イシナラだとかは、小屋でも作るとか言うときは、土台だとかに、ああいう木は使ったものだわ。イシナラだとかクルミだとかクリだとかよ。

イナウでなんか聞いたことない。ミズナラもイシナラも、できないわ。だいたい作れって言うたって、あんな木で。(貝沢市太郎)

Q) ニワトコ(*Sambucus sieboldiana* Blume)⁽¹⁷⁾

・イナウは作らない。サビタ⁽¹⁸⁾みたいなものよ。よく似てる。そして、白い花咲く。昔は知らないけど、いまは作らない。(貝沢市太郎)

R) ハンノキ

・ハンノキも、イナウは聞いたことないよ。(貝沢市太郎)

○ ヤチハンノキ(エゾハンノキ：*Alnus japonica* Steud.)

今回の調査では一般にハンノキと呼ばれた種類

・ヤチハンノキは、昔は小屋作るころ梁にだとか使ったな。長いから、軽くて。上材にな。あの木も長いんだ。性の良い木は、真っ直ぐで。だから、茅葺きの上材に使ったもんだ。梁にな。女の人は、腹具合悪いとき皮⁽¹⁹⁾(内皮の赤い所)煎じて飲んでた。(貝沢市太郎)

○ ヤマハンノキ(ケヤマハンノキ：*Alnus hirsuta* Turcz.)

・(木)肌も違うし生えている所も、谷地じゃないけど、あれも軽いし性も良いから、家材に使う。梁にしたりして。(貝沢市太郎)

S) ミズキ(*Cornus controversa* Hemsl.)

⁽¹⁶⁾ ミズナラに比べ、皮も厚く剥がれにくいから、使いづらいんだ。(貝沢市太郎)

⁽¹⁷⁾ 牧野富太郎『原色牧野植物大図鑑』1986 P.373

⁽¹⁸⁾ 和名：ノリノキ(ノリウツギ)学名：*Hydrangea paniculata* Sieb.。本文中のは別名。(参照：宮部金吾、工藤祐舜『普及版 北海道主要樹木図譜』1986)

⁽¹⁹⁾ 樹木の皮を剥すと、一番外側の皮(外皮)のすぐ内側に付いてくる赤い皮(内皮)。この部分が、薬として使われる。

・昔ミズキが沢山あった頃は、エブンキネ カムイのイナウを作るときには必ずミズキを使った。いまはあまり数がないからしょうがないけど、ミズキは性の良い木だから、なるべくエブンキネ カムイを作るときにはミズキだ。(貝沢市太郎)

・imu：イムやトゥスする血統の人は、イムするかトゥスするかを決める。二十歳くらいで決める。

その時にエブンキネ カムイには、必ずちゃんとミズキでエブンキネ イナウを作ってあげる。ヤナギとかクルミとかそんなものではあげない。

やっぱり、火の神さんにカムイノミするから、ミズキでイナウこしらえて、それにトゥスするかイムするかtekeimu：テケイム⁽²⁰⁾するかで、エブンキネ カムイを決める。

イナウこしらえて火の神さんの前に置いて、カムイノミして酒付けて、そして、それからその人がもらう。こういう風に普通の時にはしない。

だから、ミズキでエブンキネ カムイこしらえてたり、何するったって、ちゃんとミズキでやる。(黒川セツ)

T) ヤナギ(ナガバヤナギ： *Salix sachalinensis* Fr. Schm.)

・主に昔から、イナウはヤナギだとか⁽²¹⁾しか使ったの見たことない。ヤナギは、柔らかいより質が良いんだわ。イナウこしらうのに、しやすいんだ。硬くもないし。(貝沢市太郎)

・わつし(私)よく、ウチの父親も、そういう物切ってたけど、やっぱりヤナギだとか主に使っていた。そして何か、チェホロカケッって、昔は焚き火みたいなものだったからね、先祖さ物送るとか、お盆とかでも正月でもそうだったけど、こんな短いチェホロカケッ、火の前にたてて、そして、まず火の神様さ「もごもご」し、そこにもちゃんとカムイノミして、その(場にいる)皆も一緒に持って、nusa：ヌサ(祭壇)ってもとは外にもちゃんと祭壇あったからね、その祭壇の所さそのやつ立てて、そして、供え物みんなそこさあれして(あげて)、男の人拜んだら、先に入ったら、今度女の人皆でいろいろ持っていった物、みんなあげたり食べたりして、そこで振る舞うの。だから、その時見たイナウはみんなヤナギで作ってた。(貝沢アサノ)

(20) tekeinuっていうのは、人の体触わることを言うんだ、アイヌ語では、人の体触わって揉むでしょう。そして、この人はキックラセンキで腰痛いんだって来ても、まだ、腰でなく背骨がつ(づ)れているとか、まだ、筋がよってるとか、そう言う風なことで、触わって、おばさんが触わってわかるわけさ。(黒川セツ)

(21) イナウに使う樹種は、貝沢市太郎はミズキとヤナギを挙げていて、本来、ミズキを使う方が良いとしているが、最近ではミズキが少なくなって、代わりにヤナギを使うようになったと言っている。ここで言う「昔」というのは、20年ほど前のことを指している。

2. 3 pakusaha : パクサハとクルミのイナウ (黒川セツ)

クルミ

クルミのイナウは、使用の例があまりなく、黒川セツ氏の語りの中でもかなり特別な意味があるようで、使用する時も限定されている。

黒川セツ氏は語りの中で、pasekamuy : パセカムイ (尊い神)、pakusaha : パクサハ (そこら辺にいる神)、wenkamuy : ウェンカムイ (悪い神)、と使い分けている。

そして、話しの中で頻出するのが、熊の神、蛇の神、そして狐の神である。

そこで、黒川セツ氏の話より、これらの位置関係を図にしてみる (図-3)。

<図-3と聞き取りより>

熊の神でも、蛇の神でも、狐の神でも、人間に対して良いことするカムイと、そうでないものがある。そうでないものとは、神の中でも人間に対して悪さする者、性格悪いものことで、黒川セツ氏は、それをパクサハと言う。

その中でも、蛇のパクサハが人間に悪さして具合悪くしたりする。その時に、そのパクサハに具合を治させる (悪さを止めるようにいさめる) 為にカムイノミする時に使うのが、クルミのイナウである。

クルミのイナウはこの時にしか使わない。

この時クルミのイナウをあげる理由として、パクサハはウェンカムイとは違い、一応普通のそこら辺にいるカムイなので、カムイノミの時、イナウも何もを付けてないわけにはいかない。しかし、まともな良いイナウは使えないので、クルミのイナウを使う。と教えてくれた。

一方、熊もパクサハは居て、nupuri-kes puri wenkur : ヌプリケッ プリ ウェンクルって言って熊でもほんとに悪いのがいるが、それが熊のパクサハである。これを送るときは、pakasnu : パカヌヌ (~を戒める) する。ただ、その時にイナウをあげたかどうかは、みていないとのことであった。

そして最後に、狐のパクサハだが、山に入ってくる人間とかに幻を見せて惑わしたりするのがある。狐のパクサハは、図-3にもあるように、人間を惑わすような悪さをするものを、ウェンカムイと呼ぶ。そして、送るときもカムイノミもしないで、ただ、酒と米と油揚げをあげるだけにする。と教えてくれた。

<パクサハについての文献記事>

パクサハについて、以下の文献にて書かれている記事を幾つか挙げてみる。

- ・金成まつ、金田一京助 『覆刻アイヌ叙事詩 ユーカラ集 I PON OINA (小伝)』

p.79～p.135 II 客神

記事

uitek ushiu uitek bakusa : 召使のしもべ、召使のはした神が(1)

脚注(1) pakusaはkamuiの一段下の神。

・久保寺逸彦 『平成三年度 久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿』

p.200 653

記事

pakusa kamui : より一段下の神、はした神

・北海道教育委員会 『昭和57年度 アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査II)』

(記事の概要)

ある、蛇の神であるkinasutunkuru: キナストゥンクル(アオダイショウ)が人間の若者に惚れて、何とか(自分の)ものにしようとするが、主人公の若い女性に妨害されてしまう話、である。この話で、kinasutunkamuy: キナストゥンカムイ(アオダイショウの神)が若者のもとに嫁にくる若い女を追い出すために、仲間を呼び集めて嫁たちを追い払っていた。その仲間をpakusa: パクサといっており、それらはtannekamuy: タンネカムイ(蛇)であったと書かれている。

以上より、各文献に記載されたパクサ(もしくはパクサカムイ)に関する概念は、神の世界の中での、同じ神でも位が低く最も多い神という意味で、黒川セツさんのパクサハの言葉の意味と近いように思える。

ただし、黒川セツさんの語りの中では、パクサハは熊、蛇、狐の三種の神に対象が制限されている(図-3参照)が、参照の文献からは、パクサの指す『範囲』の様なものを探り出すことが出来なかった。

このパクサハを含めたカムイの世界の概念は、黒川セツさんが普段からカムイノミする上での重要な事項であるため、本稿のテーマである『イナウとしての樹木利用』とは別の形での考察の必要性が有る。

3. あとがき

本稿において、今年度集中的に聞き取りを行った、貝沢市太郎さん、貝沢アサノさん、黒川セツさんについて、イナウに関するできる限りの情報を得ることが出来、それを出来るだけ本稿に載せることが出来たと考え、『沙流川中流域におけるイナウに使用する樹木』に関する報告の、一応の区切りを付けることにした。

本稿の中でも少し紹介したが、植物(特に今回は樹木)を利用するにあたって、「人間」は、その植物に、何らかの「性格」や「意識」がある、と考えて語られる場面がよく見られたように思える。しかしそれが、どのような基準に基づいているのかについては、まだ分からない。

このことについての考察は、『アイヌ文化の植物利用』というテーマの研究を行う上で大きく関連していくと思われ、これをふまえて、今後の研究の進め方を検討していきたいと考える。

参考文献(著者・編者五十音順。著名前の数字は、表に対応する。)

- アイヌ文化保存対策協議会(編) 1『アイヌ民族誌 上』1969 第一法規
アイヌ民族博物館(編) 2『アイヌと植物 <樹木編>』1993 アイヌ民族博物館
アイヌ無形文化伝承保存会(編) 3『アイヌ生活誌』1984 アイヌ無形文化伝承保存会
4『語りの中の生活誌』1986 アイヌ無形文化伝承保存会
稲田浩二、小沢俊夫(責任編集) 『日本昔話通観 第1巻 北海道(アイヌ民族)』1989 みやま書房
伊福部宗夫 5『沙流アイヌの熊祭』1969 みやま書房
萱野 茂 『おれの二風谷』1975 すずさわ書店
6『炎の馬ーあいぬ民話集』1977 すずさわ書店
『あいぬの碑』1980 朝日新聞社
『カムイユカラと昔話』1993 小学館
7『アイヌの民具』1993 すずさわ書店
『萱野茂のアイヌ語辞典』1996 三省堂
木下 良裕(研究代表者) 8『トヨタ財団助成研究報告書 アイヌの疾病とその治療法に関する研究』1983
トヨタ財団
金田一京助 9『アイヌの研究』1925 内外書房
10『アイヌの文学』1933 河出書房
金成まつ(筆録)、金田一京助(訳注) 『覆刻アイヌ叙事詩 ユーカラ集I PON OINA(小伝)』1993 三省堂
工藤祐舜、須崎忠助 11『北海道薬用植物図彙 <復刻版>』1988 北海道大学図書刊行会
久保寺逸彦 12『アイヌの文学』1977 岩波書店
佐々木長左衛門 13『アイヌの話』1922 旭屋書店
更科 源蔵 14『歴史と民俗 アイヌ』1968 社会思想社
15『アイヌ文学の生活誌』1973 日本放送出版協会
16『アイヌの民俗 下』1982 みやま書房
更科源蔵、更科 光 17『コタン生物記 樹木・雑草編』1976 法政大学出版局
ジョン・パチラー(著)、安田一郎(訳) 18『アイヌの伝承と民俗』1995 青土社
白老町(編) 19『平成6年度 地域保健推進特別事業「アイヌ民族の伝承有用植物を利用した食生活の改善による健康増進事業」報告書』1995 白老町
田村すず子 『アイヌ語沙流方言辞典』1996 草風館
知里真志保 20『知里真志保著作 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』1996 平凡社
21『知里真志保著作 別巻II 分類アイヌ語辞典 人間編』1996 平凡社
知里 幸恵 22『アイヌ神謡集』1970 弘南堂書店

- 畑中 武夫 23『アイヌの信仰』1972 先住民族文化研究会
早川 昇 24『アイヌの民俗』1972 岩崎美術
藤村 久和 25『アイヌの霊の世界』1982 小学館
26『アイヌ、神々と生きる人々』1995 小学館
北海道開拓記念館(編) 27『北海道開拓記念館調査報告 第2号 民族調査報告—資料編I—』
1973 北海道開拓記念館
28『北海道開拓記念館調査報告 第8号 民族調査報告—資料編III—』
1975 北海道開拓記念館
29『北海道開拓記念館研究報告 第2号 民族調査報告—総集編—』
1975 北海道開拓記念館
北海道教育委員会(編) 30~44『昭和56年度~平成7年度アイヌ民俗文化財調査報告書 (アイヌ民俗調
査)』1982~1996 北海道教育委員会
45~48『昭和63,平成2,4,6年度 アイヌ無形文化財記録刊行シリーズ アイヌ
のくらしと言葉』1989,91,93,95 北海道教育委員会
49『平成3年度久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿』1992 北海道教育委員会
本別町教育委員会(編) 50『澤井トメノ 十勝本別分類アイヌ語辞典』1989 本別町教育委員会
満岡伸一(著)、満岡 章(編) 51『アイヌの足跡』1991 アイヌ民族博物館
宮部金吾、工藤祐舜(編) 『普及版 北海道主要樹木図譜』1986 北海道大学図書刊行会
山田 秀三 52『アイヌ語地名の研究 第2巻 新装版』1995 草風館
吉田 巖 53『北海道あいぬ方言語彙集成』1989 小学館
ロマイン・ヒッチコック(著)、北溝 保男(訳) 54『アイヌ人とその文化—明治中期のアイヌの村から—』
六興出版
N.G.Munro 55『AINU CREED AND CULT』1962 GREENWOOD PRESS, PUBLISHERS

表 イノウ樹木

ID	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
1	○	○		○	○				○	○		○	○		○		○	○	○	○
2				○									○					○	○	
3																	○			○
4																		○		
5																				○
6										○									○	○
7	○												○							
8																				
9																				○
10											○									○
11																				
12																				
13																				○
14	○														○		○			
15	○		○	○									○				○	○	○	○
16	○										○						○			
17	○		○	○															○	○
18	○		○	○	○						○	○					○		○	○
19																				
20	○			○											○			○	○	○
21																				
22																				
23			○																○	○
24													○					○	○	○
25	○											○								○
26																				
27								○							○			○		○
28															○				○	○
29	○	○		○	○		○	○	○	○		○	○		○		○	○	○	○
30																			○	○
31																				
32																			○	○
33																				
34													○							○
35																				○
36																				○
37																				○
38																			○	○
39																			○	
40																			○	○
41																				○
42		○											○				○			○
43		○		○						○										○
44		○																	○	○
45																				
46																				
47		○											○						○	○
48				○															○	○
49		○	○	○							○				○				○	○
50	○																			○
51		○		○									○				○	○	○	○
52																				
53																				
54																				○
55	○	○	○	○		○			○		○	○	○	○					○	○

写真 (貝沢市太郎さんのエブンキネ カムイ)

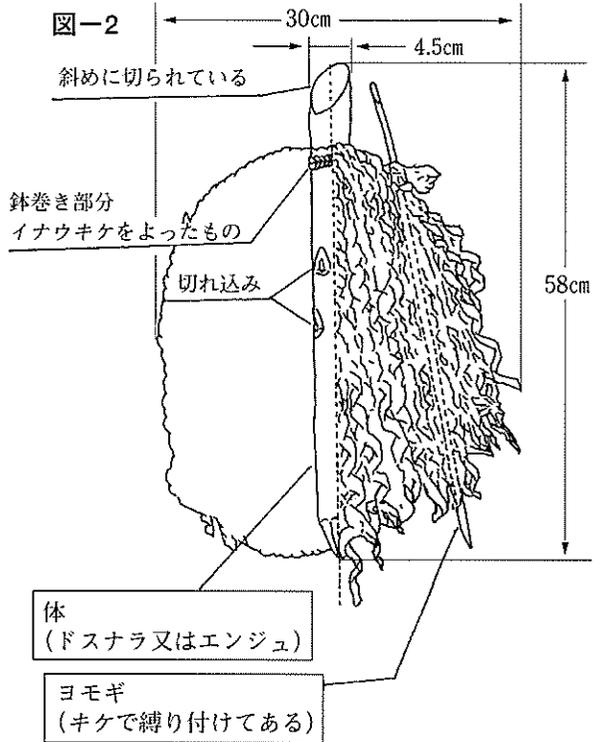


図-3

pasekamuy

良い熊の神

pakusaha

nupuri-kes puri wen kur などと
いった、人間に危害を加える者

wenkamuy

良い蛇の神

事故や、何らかの形で不幸にも死
んで、人間にすがって人間の体の
具合を悪くする蛇たち、など

良い狐の神

山に入ってくる人間を化かしたり、
事故で死んで、同じく人間を化かし
たりする者、など

よくない、不幸な死に方をして
成仏できないで、人を恐わしたり、
竜巻を起こす亡霊